

藻場分布状況モニタリング調査

佐々木 正・向井哲也（故人）・石原成嗣

1. 研究目的

近年、全国的に藻場が衰退傾向にあり深刻な問題となっている。そこで、県内の大型海藻を主体とする藻場分布状況について継続的なモニタリング調査を行うことにより、近年の藻場減少の現状把握を行うとともに、その原因について明らかにする。

2. 研究方法

調査は前年度と同様に松江市沖泊（沖泊漁港南側）、出雲市坂浦（若松鼻東側）、知夫村薄毛（大波加島西側）の3地区において大型海藻の繁茂時期である春季に空撮および潜水調査により実施した。

空撮調査では、ドローン（DJI 社製 Phantom4）を用いて各地区とも海岸線距離300～500 mの概ね水深10 m以浅の範囲の藻場の分布状況の把握を行った。

潜水調査では、各地区とも2本の調査ライン（長さ100 m）を設けて、ライン上10 m毎に海藻の被度を目視により記録した他、50 cm×50 cmの方形枠を用いた坪刈り調査（ベルトトランセクト法）を実施し、藻類の種類や現存量を把握した。

3. 研究結果

沖泊地区（調査実施日：5月15日）における大型海藻の主な構成種は、アラメ・クロメ・ワカメ・ノコギリモク・ヤナギモク・ヤツマタモクで、海藻類の被度は30～90%、単位面積当たり重量は1.1～14.0 kg/m²の範囲であった。前年と比較して藻場の分布状況に大きな変化は見られなかった。

坂浦地区（調査実施日：5月30日）における大型海藻の主な構成種は、アラメ・クロメ・ワカメ・アカモク・ジョロモクで、海藻類の被度は50～100%、単位面積当たり重量は2.0～10.7 kg/m²の範囲であった。前年と比較して藻場の分布状況に大きな変化は見られなかった。

薄毛地区（調査実施日：6月13日）における大型海藻の主な構成種は、アラメ・ツルアラメ・ワカメ・ノコギリモク・ヤツマタモクで、海藻類の被度は0～90%、単位面積当たり重量は0～3.5 kg/m²の範囲であった。海藻類の単位面積当り重量は前年より減少傾向にあったが、藻場の分布状況に大きな変化は見られなかった。

4. 研究成果

調査で得られた結果は、漁港漁場整備課が推進する藻場回復のための広域的対策（藻場ビジョン）の策定を行う際の資料として活用された。